

2017年度 決算説明会

DOWAホールディングス株式会社

2018年5月16日

2017年度決算の概要

■ 連結損益計算書

単位：億円

	2016年度 実績			2017年度 実績			比較増減					
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期		下期		通期	
売上高	1,847	2,257	4,105	2,193	2,354	4,547	345	19%	97	4%	442	11%
営業利益	133	206	339	146	162	309	13	10%	△ 43	△ 21%	△ 30	△ 9%
経常利益	135	229	365	172	190	363	36	27%	△ 38	△ 17%	△ 1	△ 0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	98	162	261	117	129	246	18	19%	△ 33	△ 20%	△ 14	△ 6%

- ✓ 金属価格の上昇により売上高が増加した一方、減価償却費の増加や製錬原料の購入条件悪化、廃棄物処理量の減少などにより、営業利益は減益となった。
- ✓ 経常利益は持分法損益の改善により、ほぼ前年度並みとなった。

為替相場、金属価格

	2016年度 平均			2017年度 平均		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
為替：(¥/\$)	105.3	111.5	108.4	111.1	110.6	110.9
銅：(\$/t)	4,752	5,557	5,154	6,005	6,884	6,444
亜鉛：(\$/t)	2,084	2,650	2,367	2,780	3,328	3,054
インジウム：(\$/kg)	222	192	207	184	269	226

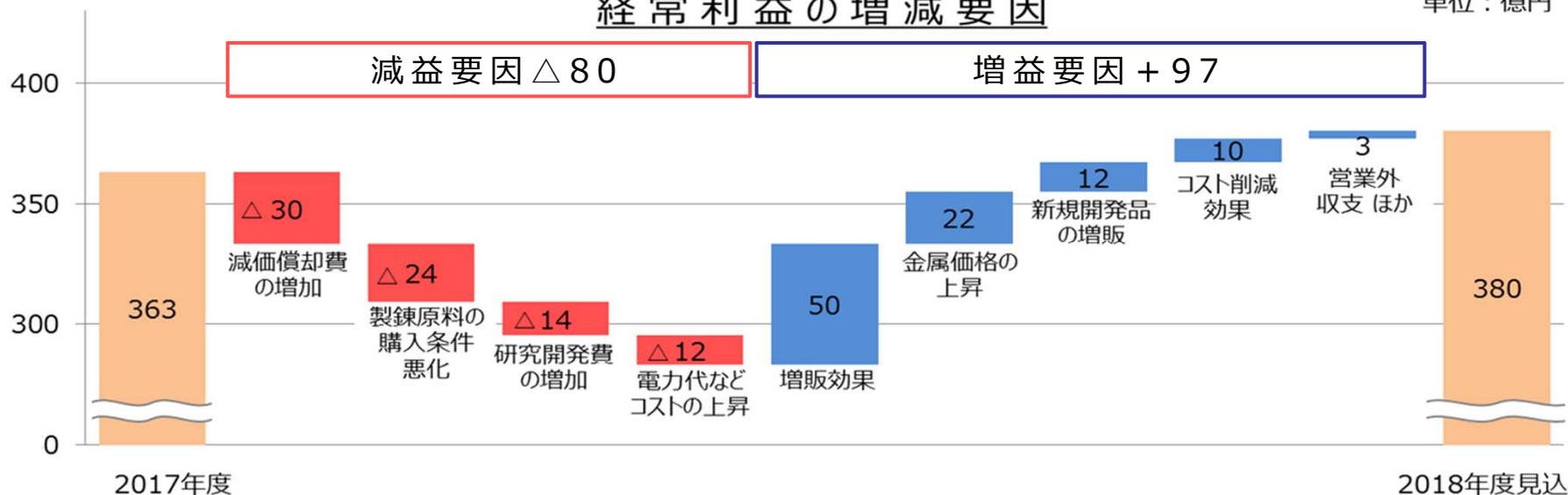
2018年度 連結業績の見通し

単位：億円

	2017年度 実績	2018年度 見込	比較増減
売上高	4,547	4,750	202
営業利益	309	320	10
経常利益	363	380	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	265	18

経常利益の増減要因

単位：億円



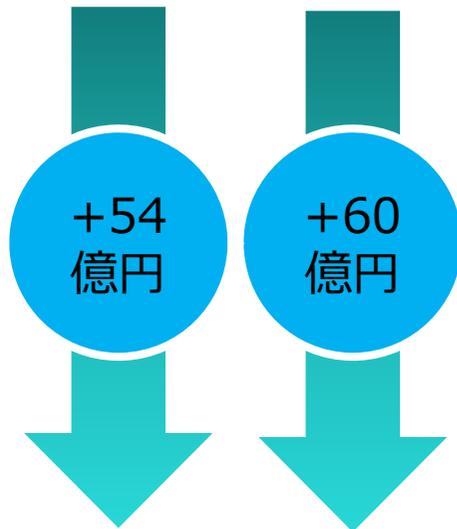
- ✓ 成長投資による減価償却費の増加や製錬原料の購入条件悪化などはあるものの、主力製品の増販や金属価格の上昇などにより、前年度比増益を計画する。

営業外収支の内訳

単位：億円

	2017年度 実績	2018年度 見込
営業利益	309	320

営業外
収支



経常利益	363	380
------	-----	-----

【2018年度の内訳】

・持分法損益：+35億円(前年度比△1億円)

鉱山関連収入は、前年度並みの+27億円

《鉱山関連収入(前年度比)》

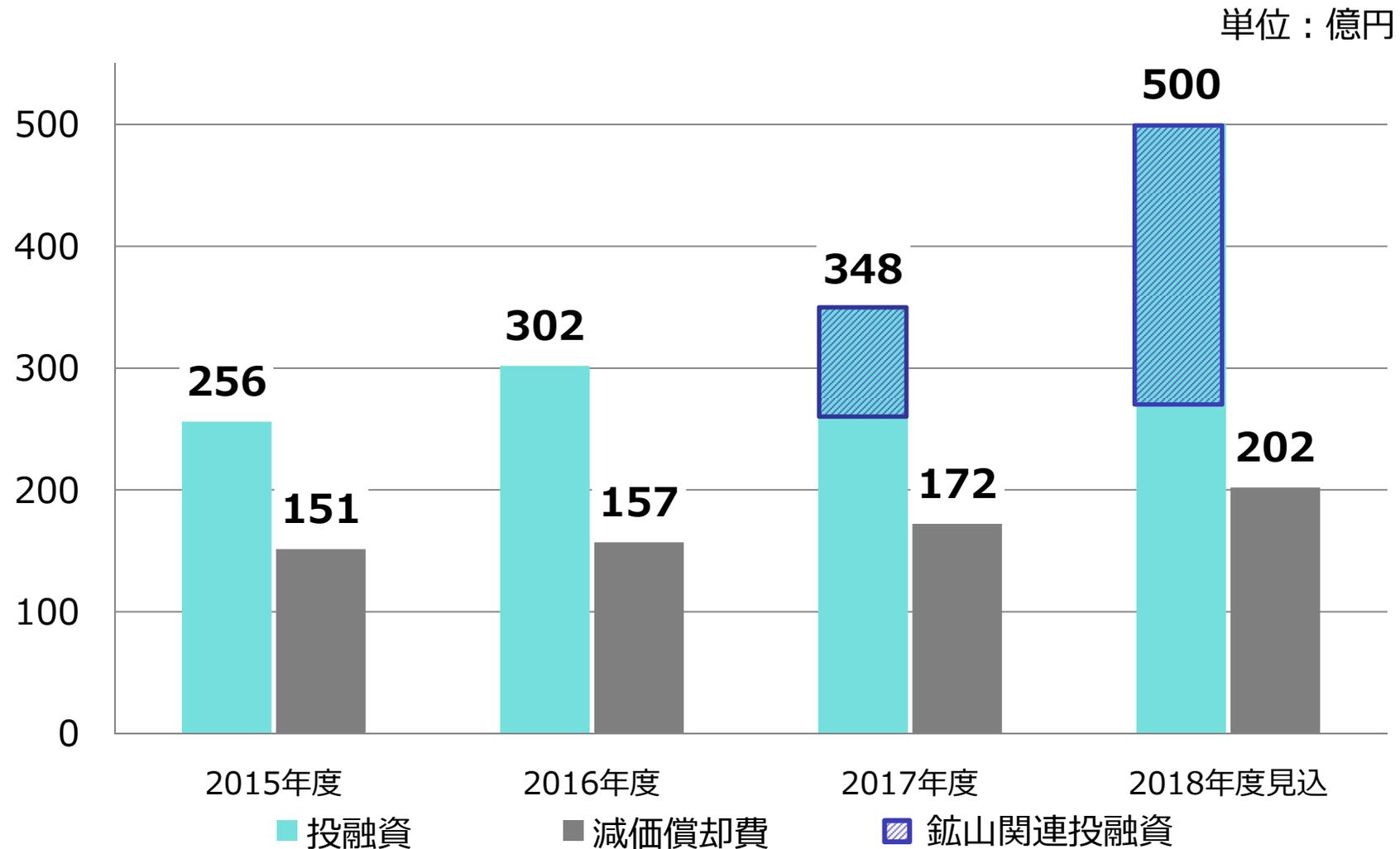
ティサパ	+5億円	亜鉛価格上昇
ロス・ガトス	+0億円	開発工事を継続
ジブラルタル	△2億円	品位低下を想定
パルマー	△2億円	探鉱活動費用

・その他収支：+25億円(同+7億円)

電子材料部門で新規製品を拡販

✓ 鉱山開発は計画通りの進捗、新規開発品の拡販も順調な滑り出し

投融資・減価償却費



- ✓ ロス・ガトス鉱山開発もあり、2018年度の投融資額は500億円へ
- ✓ 成長に向けた投資を継続、投資に伴って減価償却費も増加

各事業の2018年度概要と 主要施策の進捗状況

環境・リサイクル① 2018年度の概要

◆ 事業環境

- ・国内の廃棄物発生量は横ばい
- ・東南アジアの廃棄物発生量は増加が続く
- ・リサイクル原料は集荷環境が好転

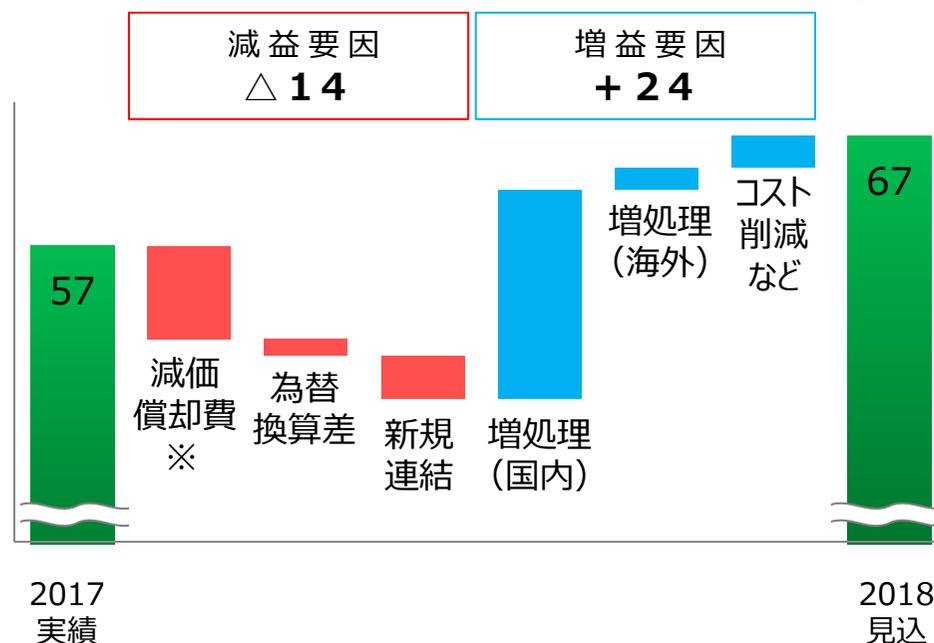
主要製品の動向

(2016年度 = 100)

	2016	2017	2018
国内廃棄物中間処理量	100	95	100
東南アジア廃棄物処理額	100	106	115
リサイクル原料集荷量(小坂)	100	94	100

◆ 経常利益（前年度対比）

単位：億円



【2018年度利益のポイント】

- ・低濃度PCB廃棄物の増処理
- ・東南アジアでの廃棄物集荷量拡大
- ・リサイクル原料の集荷拡大
- ・設備増強により減価償却費が増加

※減価償却費の増減は、新規連結分除き

環境・リサイクル② 主要施策の進捗状況

◆ 東南アジアの廃棄物処理事業の拡大

既存事業

- ・製造業等からの廃棄物集荷が拡大
- ・石油掘削汚泥処理も案件回復の見通し

事業規模・領域の拡大

廃棄物の適正処理ニーズをさらに取り込む

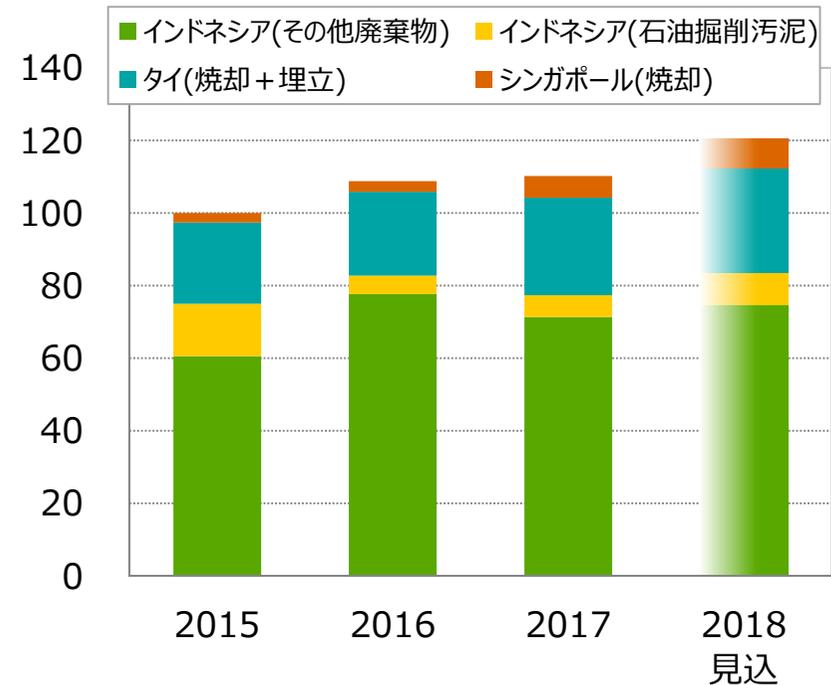
<インドネシア>

- ・焼却処理の事業化：環境アセス完了→ **同国初の事業化へ**
- ・東ジャワ新埋立処分場：環境アセス継続 → 2020年度に操業開始を目指す

<タイ>

- ・有害廃棄物処理：既存拠点において、フロン等の処理を開始
PDI社との協業を推進し、新埋立処分場を立ち上げ(2020年度)
- ・業容の拡大：自動車リサイクルプロジェクトや廃棄物発電事業へ参画

東南アジア拠点の集荷高 (2015年度=100)



環境・リサイクル③ 主要施策の進捗状況

◆低濃度PCB廃棄物の処理拡大

大型廃電気機器、汚染物、絶縁油の発生増加

- ・複数拠点を有する処理ネットワーク
- ・電気機器、汚染物、絶縁油の全て処理可能
→ 秋田・岡山の処理能力の拡大に注力

幅広い顧客層から増集荷を図る

◆リサイクル原料の集荷拡大

中国のスクラップなどの輸入規制強化により、世界的にリサイクル原料が滞留

発生地域からのリサイクル原料の集荷を拡大

処理品目	秋田	千葉	岡山	福岡
電気機器	●		●	●
汚染物	●	●	●	●
絶縁油	●	●	●	●

取り組み

千葉：大臣認定を取得 (2017.4Q)

福岡：許可数量を倍増 (2017.4Q)

秋田：許可数量を倍増 (2018.3Q)

岡山：既存炉を活用 (2018.4Q)



スクラップの一例 (出典:環境省HP)

製錬① 2018年度の概要

◆ 事業環境

- ・金属価格は堅調
- ・亜鉛地金はアジア向け需要が堅調
- ・白金族原料は世界的に発生が増加、集荷競争は激化

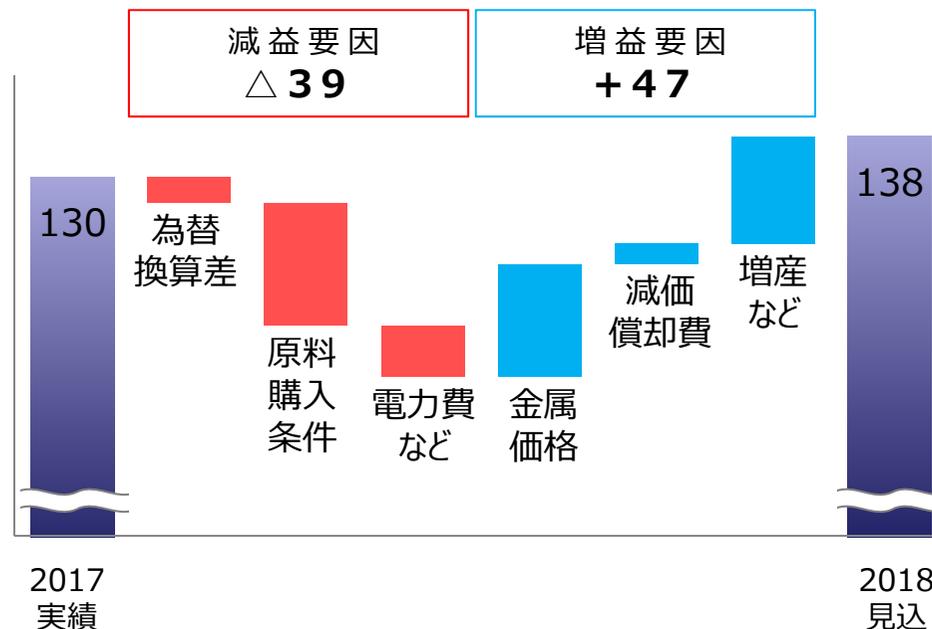
主要製品の動向

(2016年度 = 100)

	2016	2017	2018
銅生産量 (小坂・小名浜)	100	81	80
亜鉛生産量 (秋田)	100	99	100

◆ 経常利益（前年度対比）

単位：億円



【2018年度利益のポイント】

- ・増産による差量収入の増加
- ・金属価格の上昇はプラス影響
- ・原料購入条件は悪化
- ・燃料価格上昇により電力費が増加

製錬② 主要施策の進捗状況

◆製錬事業の収益力強化

地金需要は
堅調に拡大



精鉱：原料条件の悪化、品位低下・不純物比率上昇
リサイクル原料：廃電子基板の省金化、集荷競争激化

原料の調達・集荷環境の変化に対応し、コンビナート機能を強化

製錬・リサイクル複合コンビナートの取り組み

精鉱・リサイクル原料



不純物分離プロセス強化
自山鉱比率向上

亜鉛の増産・アジア向け拡販

リサイクル原料・精鉱



低品位原料の増処理
不純物分離プロセス強化

貴金属・鉛・すずの増産

使用済み自動車排ガス浄化触媒



原料集荷の拡大
(欧州・北米・アジア)

処理量1,000t/月へ



中間
産物



中間
産物

製錬③ 主要施策の進捗状況

◆ 鉱山開発の推進

ロス・ガトス銀・亜鉛・鉛プロジェクト(メキシコ)

2017 インフラ建設着工

2018 坑内設備・選鉱場などを順次建設

→ **計画通りに進捗中**

2019 (2Q) 精鉱の生産開始

(下期) 秋田製錬での処理開始



ロス・ガトスプロジェクト 建設の状況

パルマー亜鉛・銅プロジェクト(アラスカ)

2017 埋蔵鉱量800万tを確認

2018 1,000万tに向けて探鉱を継続

→ 2021年度以降のF/S開始を目指す

- ・自山鉱比率の向上(2割強→5割へ)
- ・亜鉛・銀品位の高い鉱石の安定調達
- ・持分法利益の拡大

製錬・鉱山トータルで製錬事業の収益を拡大

電子材料① 2018年度の概要

◆ 事業環境

- ・LEDはスマートフォン旧モデル向けが下支え
- ・太陽光パネル向け銀粉は、増設により増販
- ・新規製品の採用機会が着実に増加

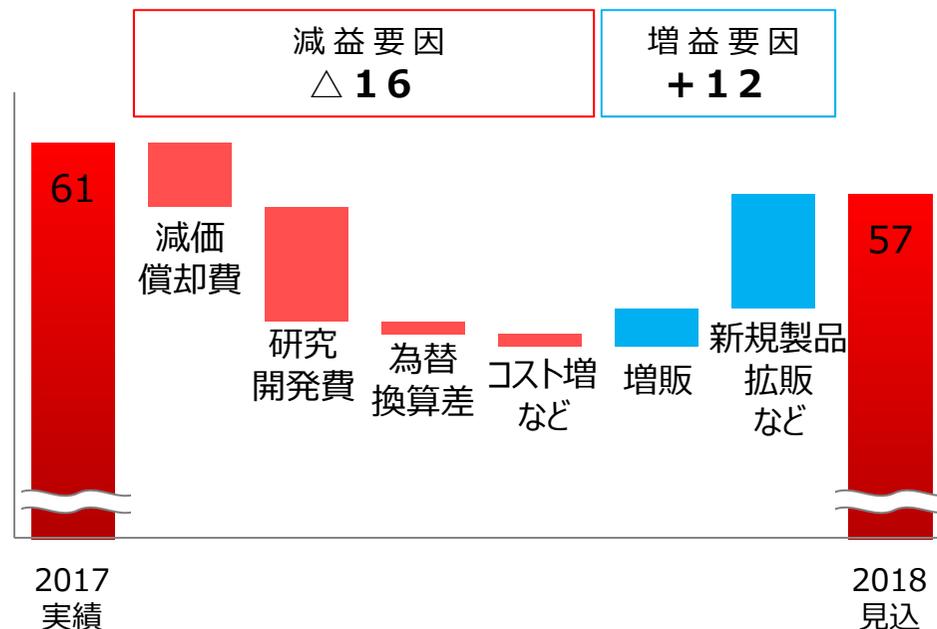
主要製品の動向

(2016年度 = 100)

	2016	2017	2018
LED販売量	100	97	100
銀粉販売量	100	94	110
新規製品収入 (サンプル代金など)	100	221	500

◆ 経常利益（前年度対比）

単位：億円



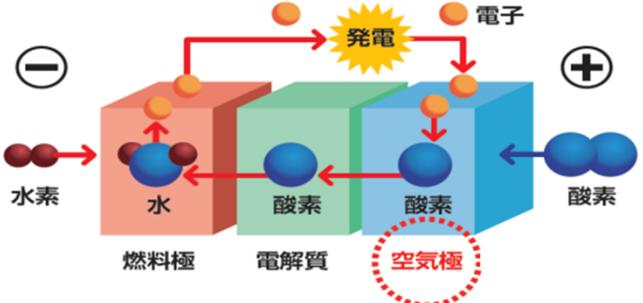
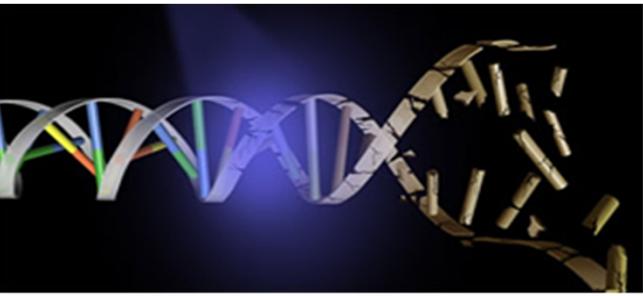
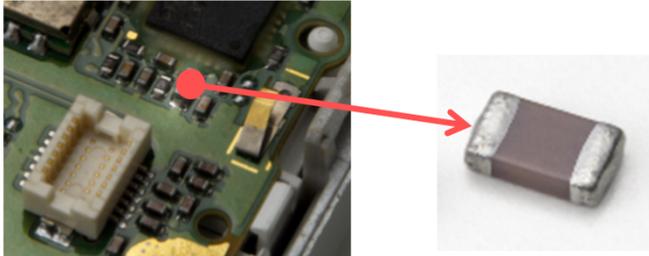
【2018年度利益のポイント】

- ・設備増強により減価償却費は増加
- ・新規製品の拡販と早期事業化に向けて研究開発費を増額

電子材料② 主要施策の進捗状況

◆新規製品の事業化

- ・市場が成長する新規製品へ研究開発費（人員・設備など）を積極的に投入
- ・特性改善により新規・代替採用を拡大し、本格量産へ移行する

用途・当社製品	当社製品の役割	2017 → 2020
<p>燃料電池 (家庭用・産業用)</p> <p>▼</p> <p>燃料電池材</p>	 <p>発電に必要な酸素をイオン化する空気極向け材料</p>	<p>量産</p>
<p>殺菌機器</p> <p>▼</p> <p>深紫外LED</p>	 <p>大腸菌などのDNAを弱体化・無害化する深紫外線の光源</p>	<p>量産</p>
<p>コンデンサ・インダクタ (電子回路部品)</p> <p>▼</p> <p>アトマイズ粉 (導電性・磁性)</p>	 <p>省電力対応電子回路部品の電極材</p>	<p>量産</p>

電子材料③ 主要施策の進捗状況

◆ 深紫外LEDの拡販

殺菌用ランプの水銀フリー化や、
長寿命化・省電力化のニーズが増加

→ 深紫外LEDの需要が拡大

■ 殺菌用途

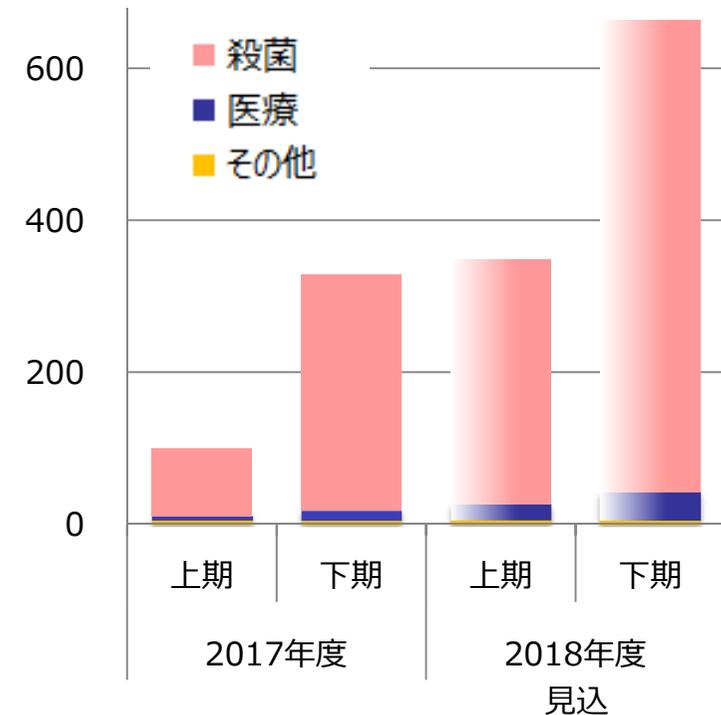
世界トップクラスの実出力を実現
殺菌機能付き家電へ採用

■ 医療用途

皮膚治療機器へ採用

- ・さらなる高出力化・長寿命化を図る
- ・浄水場や半導体メーカーで使用される
水殺菌装置・機器向けに採用を拡大

深紫外LEDの販売量（2017年上期＝100）



殺菌機器向け深紫外LED

金属加工① 2018年度の概要

◆ 事業環境

- ・伸銅品：自動車の電動化・知能化やIoTの進展により需要拡大が継続
- ・めっき：自動車の電装化により需要は増加
- ・回路基板：産業機械向けなど好調継続

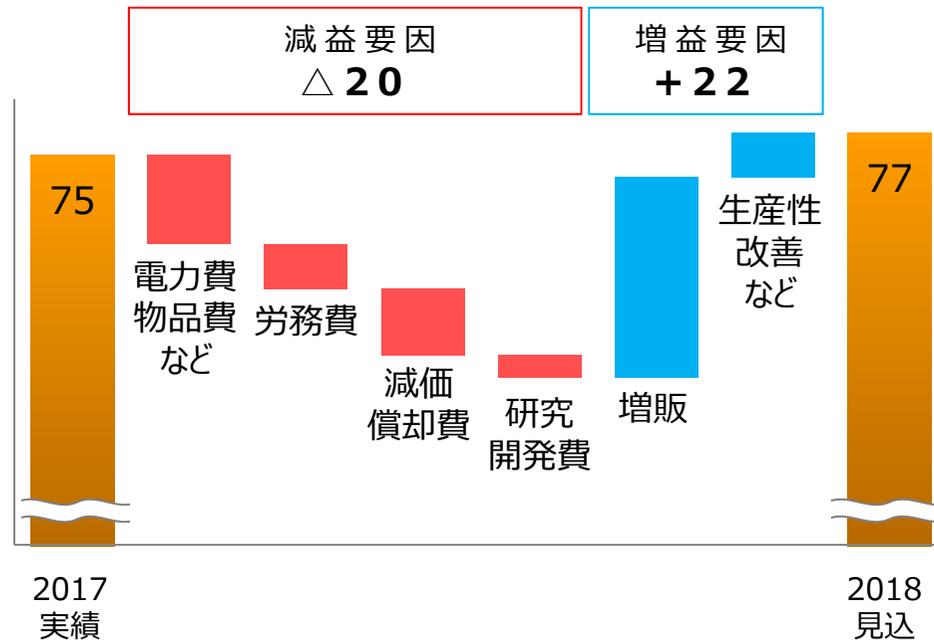
主要製品の動向

(2016年度 = 100)

	2016	2017	2018
伸銅品販売量 (自動車向け)	100	102	105
伸銅品販売量 (IoT機器向け)	100	105	115

◆ 経常利益（前年度対比）

単位：億円



【2018年度利益のポイント】

- ・高機能製品を増産・拡販
- ・増設・増産に伴い物品費や労務費、減価償却費などが増加

金属加工② 主要施策の進捗状況

◆ 高機能製品の増産・拡販

自動車の電動化・知能化、IoTの進展

→ 関連部品の需要増

特性ニーズの高度化・多様化

- ・高機能製品の増産・拡販に注力
- ・段階的かつ着実な増産

伸銅品 : 製品構成の最適化、品質改善・生産性向上による増産

2019年度以降の増産を見据えた大型投資の推進

めっき : 国内生産ラインの再編による生産性向上、増設による増産

タイ・メキシコ拠点を活用した現調化需要の取り込み

回路基板 : 設備増強による主力製品の増産、車載・電鉄向け拡販



熱処理① 2018年度の概況

◆ 事業環境

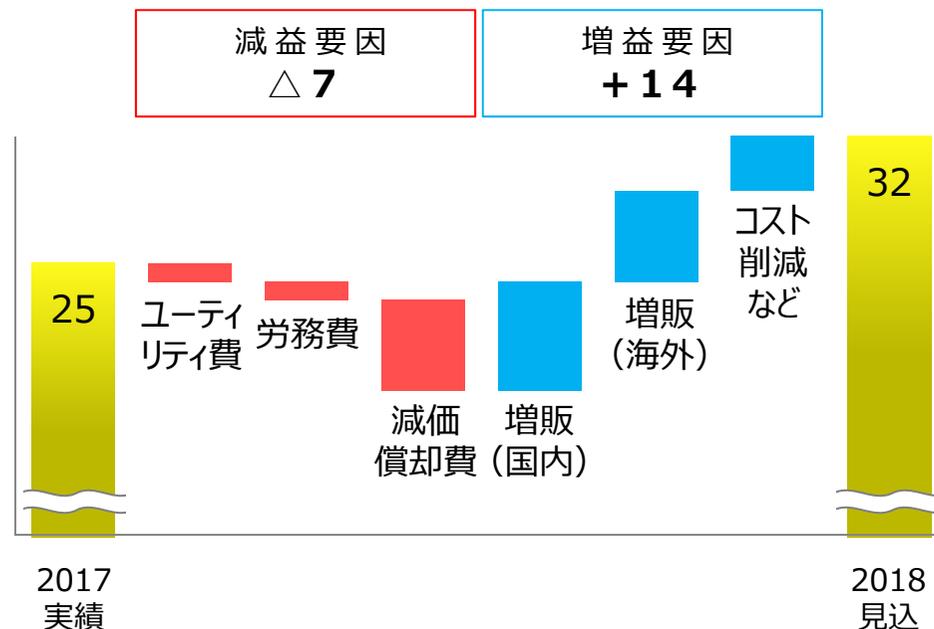
- ・自動車生産台数は、国内は微減も、インド・東南アジアが牽引し緩やかに拡大
- ・自動車部品の生産も増加基調が継続

主要製品の動向 (2016年度 = 100)

	2016	2017	2018
熱処理加工売上高	100	110	120
工業炉売上高	100	113	125

◆ 経常利益 (前年度対比)

単位：億円



【2018年度利益のポイント】

- ・自動車向けを中心に国内外で増販
- ・増設・増産に伴い、ユーティリティ費や労務費、減価償却費が増加

熱処理② 主要施策の進捗状況

◆自動車部品向け需要の拡大

・世界的にAT車が普及・拡大

→ 関連部品生産が日本で伸長、海外にも波及

日本：設備増強や自動化設備の導入

中国・北米：受注増加を見据えた設備増強

・自動車生産地での部品の現地調化が進む

→ 自動車部品向け熱処理加工も現地化

■新規投資

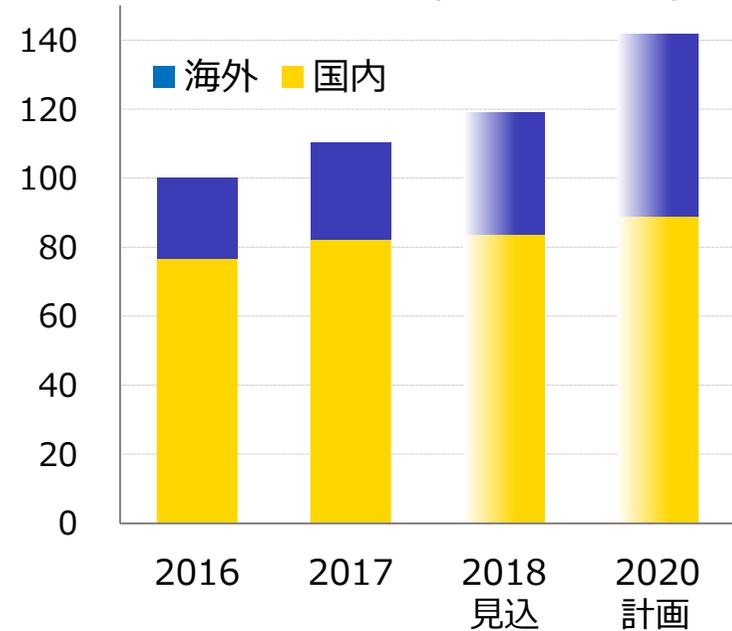
インド：新規2工場での量産開始（2018下期）

■既存設備の活用

タイ・インドネシア：生産移管品・新規量産品の獲得

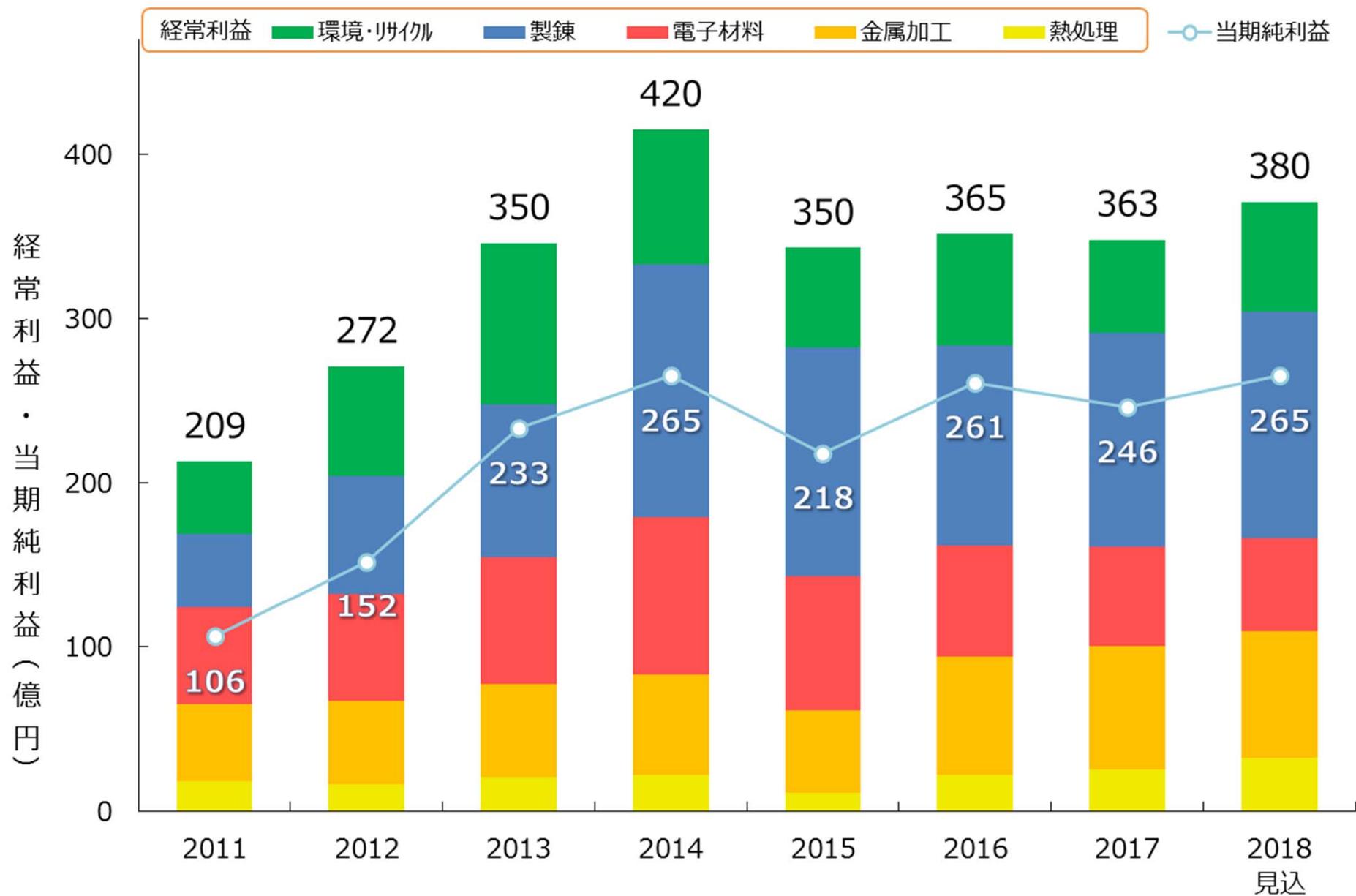
成長への投資を継続、先行投資の回収も進める

熱処理加工の売上高(2016年度=100)



インド新工場の熱処理設備

經常利益・当期純利益の推移



DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。